

平成27年度

芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次



芸術文化振興基金助成事業

助成対象者インタビュー

一般社団法人 KENTAROCKERS

舞台芸術等の創造普及活動

- 1 音楽**
角田健一ビッグバンド 2015 定期公演 角田健一ビッグバンド事務所
- 2 音楽**
第 41 回四国二期会オペラ公演 喜歌劇「こうもり」 四国二期会
- 3 舞踊**
リンゴ企画 近藤良平「神楽坂とさか計画」 セッションハウス企画室リンゴ企画実行委員会
- 4 演劇**
門司港 × 飛ぶ劇場『百年の港』 飛ぶ劇場
- 5 演劇**
KAKUTA 公演「ひとよ」 KAKUTA
- 6 伝統芸能の公開活動**
第 16 回 佐藤太圭子の会 琉球舞踊 太圭流
- 7 美術の創造普及活動**
アートプログラム青梅 2015 アートプログラム青梅実行委員会
- 8 多分野共同等芸術創造活動**
鉄道芸術祭 vol.5 ホンマタカシプロデュース
「もうひとつの電車～ alternative train～」 アートエリア B1 運営委員会
- 9 多分野共同等芸術創造活動**
明和電機 メカニカルミュージカル
「ヒゲ博士とナンセンス★マシーン」 株式会社 TASKO

国内映画祭等の活動

- 10 国内映画祭**
第 7 回京都ヒストリカ国際映画祭 京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会
- 11 日本映画上映活動**
第 10 回北海道ユニバーサル上映映画祭 北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会

地域の文化振興等の活動

- 12 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演活動）**
創立 35 周年記念式典・耶馬溪サミット in 中津・
オペラ「青の洞窟」（中津文化会館） 特定非営利活動法人 中津文化協会
- 13 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示活動）**
たかさき発！鉄道とアートの旅（平成 27 年度高崎市美術館企画展） 高崎市
- 14 アマチュア等の文化団体活動**
バレエ「くるみ割り人形」（オーケストラ付き）公演 県央地域に舞台芸術を育む会

- | | | |
|-----------|--|----------------------|
| 15 | アマチュア等の文化団体活動
第17回 万葉薪能 | 特定非営利活動法人 和歌の浦万葉薪能の会 |
| 16 | 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動
「北大東の景観」展及び文化的景観シンポジウム | 「北大東の景観」展実行委員会 |
| 17 | 民俗文化財の保存活用活動
福野夜高祭り曳山・屋台伝承公開 | 福野曳山保存振興会 |
| 18 | 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動
漆文化継承活動 | 特定非営利活動法人麗潤館 |



文化芸術振興費補助金助成事業

トップレベルの舞台芸術創造事業

- | | | |
|-----------|---------------------------------------|----------------------|
| 19 | 音楽
東京定期演奏会 第669回～第678回 | 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 |
| 20 | 舞踊
東京バレエ団公演『白鳥の湖』（ブルメイステル版） | 公益財団法人日本舞台芸術振興会 |
| 21 | 演劇
バースデイ・パーティ | 株式会社 演劇集団 円 |
| 22 | 伝統芸能
宝生会 別会能 | 公益社団法人 宝生会 |
| 23 | 大衆芸能
定席 寄席公演 | 一般社団法人 落語協会 |

映画製作への支援

- | | | |
|-----------|--|-------------------|
| 24 | 劇映画
恋人たち | 松竹プロードキャスティング株式会社 |
| 25 | 記録映画
マンガをはみだした男 赤塚不二夫 | 株式会社グリオ |
| 26 | アニメーション映画 長編
百日紅～Miss HOKUSAI～ | 株式会社プロダクション・アイジー |
| 27 | アニメーション映画 短編
発明家ドンちゃん | スタジオ四次元ボーヤ |

- 参考 芸術文化振興基金による助成
- 文化芸術振興費補助金による助成
- 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について

助成制度を利用したことがない人にとって、応募までの手続きや採択後の書類作成、基金の担当者との関係など、また助成金をどのように活用しているか、疑問を持っている方は多いと思います。

そこで、平成 27 年度の現代舞台芸術創造普及活動（舞踊）の助成を受けた、一般社団法人 KENTAROCKERS の代表 KENTARO!! さんに、助成制度を活用した体験を語っていただきました。

助成金額 1,022 千円

プロフィール

KENTARO!! 1980 年生まれ。
一般社団法人 KENTAROCKERS 代表・振付家・ダンサー。



▲ KENTARO!!

活動概要

KENTAROCKERS は、2007 年に設立。一般社団法人 KENTAROCKERS を 2015 年に設立。

URL: KENTARO!! <http://www.kentarock.com/>
東京 ELECTROCK STAIRS
<http://www.tokyoelectrock.com/top.html>

助成実績

平成 21 年度、芸術文化振興基金より、KENTARO!! ソロ公演「SADAME no MIKATA wa」の公演に対し助成金の交付を受け、それ以降平成 24 年度を除き芸術文化振興基金又は文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）の助成金の交付を受けている。

平成 27 年度は、「東京 ELECTROCK STAIRS 新作公演」で助成を受け、平成 27 年 12 月 1 から 5 日まで吉祥寺シアター、12 月 11 から 12 日まで茅野市民会館で計 8 回上演された。平成 28 年度も同じ分野で採択されている。

応募から助成を受けるまで？

—— KENTAROCKERS さんは、過去何度か芸術文化振興基金の助成制度を利用されていますが、応募しようと思った動機を教えてください。

KENTARO!! 出演料の支払い、舞台にかかる費用等、どうしても入場料収入だけでは補えない部分があり、公演の規模も広げていきたかったので、助成制度を利用しようと考えました。

—— 他の助成金制度も利用しようと思ったことはありますか。

KENTARO!! パフォーマーとしての私個人の活動には、他から助成金をいただいたこともあります。ですが、団体での活動となるとどうしても多額の経費がかかるので、我々のような規模の団体の活動にかかる経費を比較的幅広く対象としている芸術文化振興基金の助成制度に申請を行っています。

—— 応募書類の提出に当たっては、不明な点などもあったかと思いますが、振興会に問合せなどをしまし

たか。

KENTARO!! 事前に振興会の担当者に応募について相談ができましたので、提出手続きや助成対象となる経費のことなど、応募についてわからないことは具体的に確認することができ助かりました。

—— 個別相談はもちろんですが、Web サイトでは募集説明動画も掲載しているので、いつでも募集に関する概要と手続きの流れを閲覧することができます。

KENTARO!! 相談会の後も、不明な点は電話やメールで問合せすれば教えてもらえますので、書類作成に困ったことはありません。ただ、11 月に要望書を提出してから審査の結果が通知される 3 月末までの期間は不安ですね。ですが、公演が助成対象活動として採択されるということは、助成金で支援されるという財政的な側面以外に、その活動内容が評価されたということですから、公演に向けて更にモチベーションが上がります。

助成期間中

▶公演経費の悩み

—— 結果の通知までの期間の不安については伺いましたが、採択が決まってからは、どのようなことが不安でしたか。

KENTARO!! 公演が始まる前に支払わなければならない経費も多いので、お金のことにはいつも悩まされます。助成金をいただけるのが公演終了後になるのは制度上理解できますが、公演まで手持ちの資金で運営するのは大変です。例えば、交付予定額の半分は公演前に、残り半分を公演後に受け取れるなど、助成金の支払いに対して柔軟な制度があると助かります。

—— 経費面で助成金の効果があったと先ほど伺いましたが、具体的には特にどのような効果がありましたか。

KENTARO!! 主にダンサーに対する出演料に使用しました。ダンサー側も助成を受けることができたということで、私同様公演に対するモチベーションも上がりました。また、助成対象経費に公演の仕込みからばらしまでの交通費や宿泊費も計上できますので、団体として初めて国内ツアーを実施することができたのですが、コンテンポラリーダンスにあまりなじみのない長野県の茅野市で公演することができたことは、来て下さったお客さまにとっても、わたしたちの経験としても、大きな意味があったと思っています。

今後の展望

▶現代舞踊の課題と将来について

—— 活動を続けてきて、何か思いがけない発見はありましたか。

KENTARO!! わたし自身が作家、振付家として認められるようになったことはもちろん嬉しいですが、団体としての活動を続けてきたことで、カンパニーのメンバーが個々に認められてきたことは、とても嬉しく思っています。昨年度も、カンパニーメンバーの一人(高橋萌登)が、海外のフェスティバルに招聘されています。

—— 助成を受けながら活動を行ってみて、どんな課題が見えてきましたか。

KENTARO!! 助成金がないとなかなか設備の整った劇場での大規模な公演の実施は難しいです。予算が足りず、若いダンサーが小さな規模の公演で満足してしまい、広がりを持った自由な公演を自ら企画・実施する、というレベルまで達していないのが現状です。

劇場側も、ダンス公演の枠が減ってきています。そのため、演劇等、他のジャンルの公演との競争の中で生き残っていかなければならないので、ここが踏ん張りどころだと思っています。また、日本のダンスがどんどん縮小してしまう危機感は常に感じています。現代舞踊公演は、1回の公演で身体に大きな負荷がかかるので、他のジャンルのように1か月の長期公演はで

きませんが、少しでも多くのお客さまに観てもらえるよう、できる限りキャパシティの大きい会場で公演できるように努力していきたいです。

日本にはダンサーはたくさんいますが、ダンスを観に来る人は、まだまだ多くありません。ダンスをできる環境の劇場も限られています。助成を受けることによって、大きな規模の公演を続けていけますので、より多くのお客さまに観ていただいて、色々な感想を持ち帰っていただく作品を作り続けることで、社会への還元ができていると思っています。

—— 今後の展望について

KENTARO!! 将来的には、固定の劇場で毎年新作を発表できるように、どこかの劇場のレジデンスカンパニーになり、キュレーションからじっくりと制作を行っていくことを目指したいです。また、アーティストがやりたいときにやりたいことを実現できる環境をサポートし、活動を継続させて多くの人たちに公演を見てもらえるよう環境づくりにも取り組んでいきたいです。そのためにも芸術文化振興基金のような助成制度も大いに活用させていただきたいと思っています。

—— これからの活躍を期待しています。本日は、ありがとうございました。



▲ Dance New Air 2016 (スパイラルホール) 参加作品
「前と後ろと誰かとえん」(撮影: bozzo)



▲ 2014年(シアタートラム)公演
「ひとびとひとり」(撮影: 大洞博靖)

1 角田健一ビッグバンド 2015 定期公演

角田健一ビッグバンド事務所

助成金額 1,622 千円

活動概要

角田健一ビッグバンドは20世紀初頭米国で生まれたジャズの歴史的作品を演奏し、ビッグバンドの普及を図るとともに、意欲的なオリジナル作品を生み出していくことを目的として1990年に設立。

平成27年度はバンド結成25周年と戦後70年を迎えるにあたり2回の定期公演を開催した。6月には当時「渡辺弘とスターダスターズ」のバンドシンガーだったペギー葉山を迎え、現在では全く観ることのできなくなった「バンドシンガーがいた時代」と題する公演を、12月にはクラリネット奏者の北村英治を迎え、日本の戦後から昭和へ続くジャズの歴史を振り返る「ビッグバンドの黄金時代」と題する公演を開催した。



▲ 2015 定期公演

助成を受けて

現在日本ではジャズの公演数が徐々に減る傾向にあり、集客数を増やすことが課題ですが、2015定期公演では、今までの来場者の評価や企画意図を新聞広告などで周知でき、学生をはじめジャズに馴染みのない人達にもご来場いただき入場者の拡大を図ることができました。

また、助成を受けたことでペギー葉山、北村英治ら日本のジャズを作り上げてきた方をソリストとして迎え、ホール、舞台美術、照明なども充実させたステージを展開できました。

6月公演では、戦後に流行したバンドスタイル「バンドシンガーがいた時代」を開催し、お客様の大きな感動を呼び起こし、現在では観ることが出来ないステージを披露できたことは大変有意義であったと感じております。

当時の音楽事情を調べるためにバンドシンガー出身のペギー葉山さんほか、関係者に話を聞きましたが、音源や写真などの資料がほとんど残っておらずステージ作りが当初想像していた以上に大変でした。

さらに12月公演では戦後から昭和のジャズの歴史を振り返る「ビッグバンドの黄金時代」と題した公演を開催し、演奏スタイルも当時の表現（奏法）を使い現代とは違った充実した公演となりました。お客様からは「とても懐かしく、昔を思い出して気分が若返った。元気が出た。」、また若い学生さんからは「今まで聴いたことがないサウンドでカッコ良かった！」といった声を多数いただきました。

今後は生のビッグバンドの魅力を伝え、新しいジャズファンの開拓をし、積極的にビッグバンドの普及に努めてまいります。



▲ 2015 定期公演 ペギー葉山 (Vo)

角田健一ビッグバンド事務所

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北1-6-10

Tel: 03-5380-4717 URL: <https://tsunokenband.jp>

2 第41回四国二期会オペラ公演 喜歌劇「こうもり」

四国二期会

助成金額 2,622千円

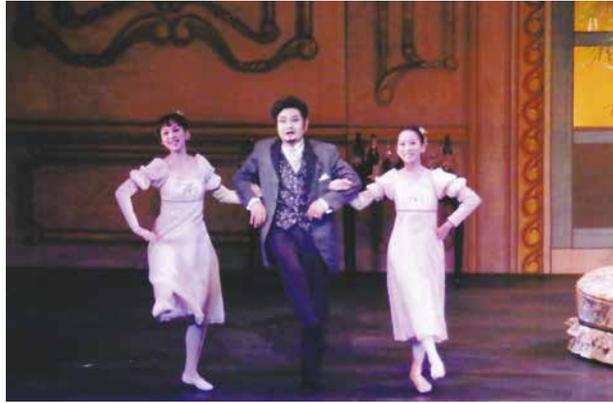
活動概要

四国二期会は1983年に二期会四国支部として設立。「県民に親しまれる魅力的なオペラ公演の実施」を理念に掲げ、地元で活躍する声楽家やオーケストラを中心に、オペラ文化の地域定着化と新しいオペラ愛好者開拓のために活動を続けている。

第41回オペラ公演は、四国二期会としては初めてとなるJ.シュトラウス二世作曲オペレッタ「こうもり」を上演。指揮・牧村邦彦、演出・井原広樹、管弦楽・瀬戸フィルハーモニー交響楽団、合唱・四国二期会オペラ合唱団を中心に、ハーモニーの響きの美しい力強い合唱、優雅なバレエ、その他、質の高いキャストの共演で、美しく楽しいオペラステージを創り、地域の文化向上に寄与する団体として大きな支持を得ることができた。



▲「こうもり」



▲「こうもり」

助成を受けて

最近、高松市は芸術活動が盛んになってきており、市民の芸術への関心が高まっています。

以前は芸術的に意義のある作品、日本ではあまり公演されていない作品の上演を続けたこともありましたが、地方でのオペラ文化振興には、良い結果が出ませんでした。近年は、知名度のある作品を取り上げ、聴衆の確保に努力しています。

日頃の活動を通じて思うことは、団体としての練習場を持っておらず、ホールのリハーサル室やその他の公共の施設を多額の使用料金を払い使用しているため、本番直前の練習に支障をきたす可能性が高いこと、また、指導者等主要スタッフを東京や大阪から呼ぶことが多いため、都市部と違いその費用が重荷となっていることです。今回は、助成金のおかげでそれらの費用を軽減することができました。そして、振興会から助成を受けることで、作品・事業への社会的信用が得られたと思います。

今回の活動を通じて、四国二期会が掲げる「県民に親しまれる魅力的なオペラ公演の実施」という理念の実現化に少し近づけたことが実感できました。前回の公演に引き続き、ほぼ満員に近い観客を動員することができ、公演後も地域の各界の文化人から称賛の声をいただきました。資金、練習、拘束時間など厳しいオペラ事業ですが、観衆のみならず、出演者からも感動と満足の声が聞けたことは、とてもうれしい喜びです。

また、香川でのオペラ事業の成功、継続が隣県にも良い影響を与え、平成28年度は、愛媛支部にて当会のオペラ本公演を単独で初めて行うことになりました。今回の楽しく快活なオペレッタ公演により、観客はオペラを身近な芸術として認識を新たにしてくれたのではないかと考えています。

今後は、次年度のオペラ公演の計画・実施と3年計画、5年計画を立てられる経済基盤、スタッフ、会員の確保に力を注ぎたいと思っています。また、オペラの固定ファンを増やし、四国二期会のオペラを、さらに地域を代表する活動として認知されるよう努力したいと思っています。

四国二期会

〒760-0017 香川県高松市番町1-3-1

Tel: 090-4507-5308

3 リンゴ企画 近藤良平「神楽坂とさか計画」

セッションハウス企画室リンゴ企画実行委員会

助成金額 322千円

活動概要

セッションハウス企画室リンゴ企画実行委員会は、2001年に設立。観客との接点を重視した公演形態で、新しいダンス表現を創り、コンテンポラリー・ダンスの社会への浸透を目指している。

リンゴ企画は、人気度の高い舞踊団「コンドルズ」の主宰者でもある近藤良平が振付・演出を担当し毎年公演を実施している。今回の公演は“大人も子どもも楽しめること”をテーマとして、音楽はピアニストの廣澤麻美とリンゴ企画のスタッフが協議して旧ソ連の作曲家ドミトリー・カバレフスキーの「子どものためのピアノ小曲集」とアラム・ハチャトゥリアンの「少年時代の画集」を用いることを決めた。共演ダンサーは、頭角を現し始めた若手ダンサーを選出して次世代の育成を図った。

今回は「目で見る音楽、音で聴くダンス」をコンセプトとして3回目の公演となるが、大人と子ども双方に呼び掛ける本企画は、感性の優れた子どもたちが芸術に親しむ場の拡大につながった。

助成を受けて

バレエや日本舞踊が備えている共通の形式や、様式美を持たないコンテンポラリー・ダンスは、その多様性のために共通したイメージを持ちにくいようです。そこで、私たちは、まだ認知度が高いとはいえないコンテンポラリー・ダンスを、大人から子どもまで楽しめるものにして、裾野を広げていくことを課題としています。

今回は、次世代の育成を目的として、あまり認知度のない若手ダンサーを起用したため、観客動員という点に関しては苦慮しました。

しかし、創作過程の中で、楽曲や作品のコンセプトへの理解度を深めることができたのは、若手ダンサーにとって、大きな成長の糧になったと思います。また、理解を深めた作品を観客に提示する若手ダンサーにとって、小劇場ならではの直接的な観客の反応に触れたことは、コンテンポラリー・ダンスの多様性に思いを致す場となり、今後の活動の指針となっています。

人間関係が希薄になっていると言われる現在、誰しもが持っている「カラダ」をコミュニケーション・ツールとしたダンスを通して、観客の皆様にと人々が繋がることの意味を感じ、考えてもらう点において、ダンス活動の「公益性」はあると考えます。

この活動を行ったことで、ダンスの社会への普及を図っていくときに、「演じる、観る」という演者と観客の向き合い方はいかにあるべきかを考える姿勢が、ダンサーにもスタッフにもより顕著になってきたと思います。

今後も、優れた音楽家のライブ演奏と第一線のダンサーとのコラボレーションを観ていただくことによって、大人から子どもまで幅広く、これまで知らなかった芸術ジャンルと出会う機会を提供し続けたいと考えています。



▲カバレフスキー「こどものためのピアノ小曲集」より 『貴賓席』



▲ハチャトゥリアン「少年時代の画集」より 『ハレの日』

セッションハウス企画室リンゴ企画実行委員会

〒162-0805 東京都新宿区矢来町158 セッションハウス内
Tel: 03-3266-0461 URL: <http://www.session-house.net>

4 門司港 × 飛ぶ劇場 『百年の港』

飛ぶ劇場

助成金額 822千円

活動概要

飛ぶ劇場は、1987年に北九州の大学演劇に携わっていたメンバーが集まり設立された。代表で劇作家・演出家の泊篤志の作品の上演を中心に活動している。

門司港 × 飛ぶ劇場「百年の港」は、門司港という街と九州を代表する劇団「飛ぶ劇場」がタッグを組み、門司港という街に生きる人々の「物語」から演劇作品を創りだした。

この街の歴史と生活を織り交ぜながら、今に生きる我々に「百年に及ぶ人の営み」そのものが歴史であると訴える作品として、門司港の歴史を再確認してもらいたいと考えると同時に、繰り返し上演されることで、この街に財産を残すことができると考えている。



▲『百年の港』

助成を受けて

劇団創立29年を迎え、役者個々の能力が高くなってきました。それ自体は喜ばしいことですが、それぞれに外部での客演が増え、出演者や公演の制作期間を確保するのが難しくなってきたという問題を抱えています。

今回は、劇団の本拠地である門司港100年の歴史を取り扱った作品だったので、地域のご老人、昔から商売を営む方々にインタビューを行い、住民の身体を通した歴史を掘り起こして作品を創作することができました。

大正・昭和・平成と長い時代の中で金物屋からスーパーへと変化する家が舞台となったため、舞台美術・衣裳・映像など幾つもの時代についてリアリティが求められましたが、助成金のおかげで、その時代の世界観を出せるものが用意できました。

一方、旧大連航路上屋という普段あまり演劇公演を行わない会場だったので、照明・音響・仮設の客席など、様々なアプローチで「リアリティのある門司港」を描くことに腐心しました。

しかし、様々な形で地元の方々と一緒に舞台を作ることができたので、終演後、俳優陣に対して多くのお客様からお声かけいただきました。早速、再演の話が持ち上がるなど、「演劇で街の魅力を再発見し発信できる」一つの事例として、今後の展開に期待しています。

門司港には新しい観光都市として発展していく一面と、衰退した産業の一面が混在しています。今回の公演では、その衰退の歴史に焦点を当てました。その中で、観ていただいた皆様に、そこに生きてきた人を通して、誇り・尊厳のようなものを感じていただけたのではないかと考えております。

今後ですが、この作品が未永くこの地で演じ続けられるレパートリーとなるべく、様々な仕掛けを講じていきたいと考えております。同時に、今回の製作のプロセスは、他の地域でも実践できるものなので、是非、他市、他県でも滞在制作等を行いたいと考えております。



▲『百年の港』

飛ぶ劇場

〒800-0033 福岡県北九州市門司区大里桃山町 2-30
Tel: 093-372-0299 URL: <http://www.tobugeki.com>

5 KAKUTA 公演「ひとよ」

KAKUTA

助成金額 1,722 千円

活動概要

KAKUTA は、1996 年に設立。主宰は作・演出を務める桑原裕子。普段演劇にふれる機会の少ない人も楽しめる普遍性を持った作品づくりを目標としている。

「ひとよ」は 2011 年 10 月初演。シアタートラム、北九州芸術劇場で KAKUTA15 周年記念公演として上演され、大きな反響を呼び、再演の要望も大きかった作品である。再演にあたり、さらに作品の価値を高めるため、脚本のブラッシュアップと新演出を加え、より完成度の高い作品として再創作した。ザ・スズナリで上演した東京公演に引き続き、横浜市の KAAT 神奈川芸術劇場大スタジオでも公演を実施した。

「ひとよ」の登場人物は、幅広い年代の不器用な人ばかりである。親子・兄弟・同僚・男女といった人間関係のコミュニティがわずかなタイミングで崩壊し、そして再構築されていく姿を描いた本作品は、普遍的なテーマを独自の視点で追求する KAKUTA の代表作であり、4 年ぶりに再演することで、現代の社会が抱えている問題を改めて見つめなおす機会となった。

助成を受けて

いろいろな助成制度を調べたところ、芸術文化振興基金の「現代舞台芸術創造普及活動」の助成趣旨が当劇団の活動に対して適切と思ったため、申請をすることにしました。

劇団としての活動を重ねるにつれ、観客動員数が増え、お客様の期待も大きくなってきたことを実感しております。そのため、演出上のクオリティを上げる必要性も高まりましたが、支出に見合うようなチケットの値上げはできない状況の中で、助成のおかげで劇団外部からの出演者を招へいすることができ、より効果的なキャストिंगができました。また、東京公演と横浜公演では舞台の大きさに差があったため、演出やセットのアレンジも必要となり、制作費は初演時より膨らみましたが、助成金のおかげで、初挑戦となる KAAT 神奈川芸術劇場での公演が実現でき、これまでアプローチできなかった客層にも作品を提示する機会を設けることができました。

本公演は再演作品ですので、作品のクオリティとしては初演以上のものが求められ、観客動員面でも不安がありましたが、結果としては初演を上回る動員数を記録することができましたし、我々の印象としては初見のお客様が多いように感じました。「初演でアプローチできなかった観客に本作を提示する機会とする」点と「普段演劇にふれる機会の少ない人も楽しめる普遍性を持った作品づくり」という劇団の活動目標に合致している公演になったと感じています。

今後も適切な経費で柔軟に地方公演が行えるようなノウハウの蓄積をより重ねていきたいと思っています。



▲ KAKUTA 公演「ひとよ」



▲ KAKUTA 公演「ひとよ」

KAKUTA

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-7-6-302

Tel: 090-6311-1996 URL: <http://www.kakuta.tv/>

6 第16回 佐藤太圭子の会

琉球舞踊 太圭流

助成金額 1,722千円

活動概要

琉球舞踊 太圭流 は1981年に琉球舞踊の普及と技芸向上を図り、琉球舞踊界の発展に寄与することを目的として設立された。家元の佐藤太圭子は1996年に沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者として、2009年には国の重要無形文化財「琉球舞踊」（総合認定）保持者として認定された琉球舞踊保存会会員を代表する舞踊家である。

第16回となる今回は、佐藤の芸歴65年記念として、東京の国立劇場小劇場で開催。佐藤による古典舞踊や創作舞踊のほか、地歌の人間国宝富山清琴を迎えて創作した作品も披露した。琉球王朝時代から継承されてきた古典芸能を県外の多くの方に見ていただくとともに、今も新しい作品が創作されていることを広く公開することができた。



▲ちばり太鼓

助成を受けて

琉球舞踊は、2009年に重要無形文化財として指定されましたが、沖縄という一地域で継承されてきた芸能ゆえ、能や歌舞伎、文楽等の全国区の古典芸能と比べると、全国的認知度、普及率は各段に低いものとなっています。琉球舞踊の知名度を広げたいという思いがありましたので、沖縄県外で公演する必要性を日頃から強く感じていました。しかし、地理的に離れているため公演費用がかさむこと、知名度不足によってチケットが売れないこと等開催は困難であると考えていました。それでも、地歌の人間国宝である富山清琴先生の協力を得て、三味線音楽最古の歌曲といわれる「琉球組」の「揺上」に、琉球三線とのコラボレーションによる新たな振付を行うこととなりました。

今回、芸術文化振興基金の助成対象活動に採択されたことで、公演の質の高さを強くアピールでき、多くの方に観ていただくことができました。初めて琉球舞踊を観たという在京のお客様から、最大級の賛辞を記した丁寧な手紙をいただいたことは、よい励みとなりました。

琉球舞踊の理解者を増やしていくためには、毎年とまではいなくても、定期的に首都圏等、本土公演を行う必要があると思いました。また、沖縄県内での内向きな公演で満足しがちな琉球舞踊界に、県外公演に挑戦しようとする機運が、若手の中から生まれてきたように思います。

今後ですが、先師から伝承した琉球舞踊に更に磨きをかけ、研鑽するとともに、沖縄の中に閉じこもることなく、積極的に県外・海外公演を企画・発信していきたいと思っております。



▲揺上

琉球舞踊 太圭流

〒901-0152 沖縄県那覇市小祿 1-8-18

Tel: 098-857-0108 URL: <http://www.geosities.jp/takaryuokinawa/>

7 アートプログラム青梅 2015

アートプログラム青梅実行委員会

助成金額 1,188千円

活動概要

アートプログラム青梅実行委員会は、2002年に設立。東京都西部「多摩地域一青梅」をフィールドに、豊かな自然環境、歴史ある街並み等、伝統文化のある風土を生かし、地域、大学、学校、文化芸術機関、市民、行政と連携、協働事業の実践により、芸術文化が地域社会の再生に機能する「しくみ」の構築を目指している。

アートプログラム青梅2015は、2015年10月17日から11月15日の期間に、戸谷成・内田めぐりなど、国内外で活躍する現代作家による絵画・彫刻・版画・インスタレーション作品を展示した現代美術展、武蔵野美術大学などの学生25名の作品による4大学生展を開催、また、多摩美術大学の本江邦夫教授を招いた基調講演やシンポジウム、小中学生のスタンプラリー、学生展ガイドツアー、鑑賞教室、アーティスト交流授業、ワークショップ等、アートを通じて世代を超えて交流する多彩な活動も行った。



▲学生によるガイドツアー 11月1日(日) (撮影 村井旬)



▲作者 二藤建人 作品名「反転の山」(2015年)
素材 FRP、ティッシュペーパー、土
サイズ 500×480×160cm (撮影 村井旬)

助成を受けて

助成を受けたおかげで、クオリティの高い展覧会を開催できたこと、また、ポスター・チラシなどを作成するなど広報の充実を図り、効果的な宣伝を行うことができたことにより、総観覧者数6,300名という結果になり、地域はもとより美術界からも幅広い評価を得ることができました。

行政との連携、市民参画などの課題もありますが、参加作家の現代美術作品の鑑賞教室やアーティスト交流授業の実践を重ね、学校教育との連携に取り組みました。子供たちの鑑賞教育とともに、若い美術教師の研修、育成につながったように感じます。

また、アートプログラム青梅の活動の中で、学生展には延べ200人余りの学生が参加してきました。近年、青梅周辺では、若い現代作家が在住、制作し、意欲的な企画展の活動が活発に行われるようになってきました。

今後については、美術が単に地域社会の活性化として消費されることなく、真に文化の「しくみ」として根付くことを目指し芸術文化を担う次世代の人材の教育と育成の仕組みに取り組んでいきたいと思います。

青梅は首都東京の水脈、多摩川が武蔵野台地に広がる扇の要に位置します。そこにレジデンスの場を持ち、芸術、文化、メディア、ベンチャーなど、国の内外の若い才能が交流し、世界に発信する人材の育成となるような活動をしていきたいと思います。

アートプログラム青梅実行委員会

代表 原田 丕

〒205-0016 東京都羽村市羽加美 1-19-12

Tel: 042-554-4963

8

鉄道芸術祭 vol.5 ホンマタカシプロデュース 「もうひとつの電車～ alternative train ～」

アートエリア B1 運営委員会

助成金額 3,022 千円

活動概要

アートエリア B1 運営委員会は、2009 年に設立され、2010 年から京阪電車なにわ橋駅のコンコースにあるアートエリア B1 において、「鉄道芸術祭」を実施している。

アートや文化、知のさらなる交流、情報の交換を促進し、駅の賑わいを創出することで、コミュニケーションスペースとしての駅の新たな役割を追求するとともに、大阪中之島地域のフラッグ・シンボリックな存在を目指している。

今回の「鉄道芸術祭 vol.5」は、広告業界やデザインなど多分野で活躍する写真家ホンマタカシ氏を迎え、「風景・景色、視覚・視点」をテーマとして沿線の施設や環境を活用した展示やトークイベント等、様々なプログラムを実施した。



▲「光善寺駅」のホームに設置された「カメラオプスキュラのインスタレーション」の部屋（外観）

助成を受けて

今回の「鉄道芸術祭」は、特定のジャンルに留まらず、多岐にわたるアーティストを中心とする実験的なグループ展となることから、芸術文化振興基金の「多分野共同等芸術創造活動」の助成の趣旨に合致すると思ひ申請しました。

開催の5か月前より、ホンマタカシ氏が全体のプランや作品プラン検討のため、沿線のリサーチを始めました。その結果を踏まえてゲストアーティストの選定やホンマタカシ氏の新作の制作が始まりましたが、ほとんどの作品が駅など公共空間でのリサーチと制作を要したため、制作場所や方法については様々な調整が必要となりました。また、開催場所も駅のコンコースという性質上、活動が制限されましたが、それらの制約を積極的かつポジティブに捉え、いかに芸術表現に活かすかということに常に考えました。

成果としては、既存の美術作品の展示にとどまらず、多様な表現形態を用いた新たな芸術表現の可能性をアーティストやクリエイターと一緒に探求することができました。さらに展示のみならず、電車内でのパフォーマンス公演やツアー企画を開催することで、幅広い客層にご来場いただけたことは、今回の活動が芸術文化の振興に寄与できたものだと考えます。

今後ですが、本事業によって制作し、事業終了後も期間を延長して設置することとなった沿線駅のホームにある「カメラオプスキュラのインスタレーション」の部屋を活用したプログラムや今回と同じように展覧会終了後も作品やプロジェクトが継続されることを意識して企画実施していければと考えています。



▲展覧会場（アートエリア B1）

アートエリア B1 運営委員会

〒530-0005 大阪府大阪市中之島 1-1-1 京阪電車なにわ橋駅地下1階
Tel: 06-6226-4006 URL: <http://artarea-b1.jp/>

9 明和電機 メカニカルミュージカル 「ヒゲ博士とナンセンス★マシン」

株式会社 TASKO

助成金額 822千円

活動概要

株式会社 TASKO は、2012年に設立。舞台から美術、音楽、古典芸能まで、国を問わず様々なジャンルを融合することによって、新しい表現を模索し制作することを目的としている。中小電気メーカーを模してユニークな電動楽器を開発し、それによる音楽を中心としたパフォーマンスを行う芸術ユニット明和電機のプロデュースも行っている。

本公演は、明和電機が開発した様々なユニークな電動楽器マシンの伴奏にあわせて、ロボットやダンサーが歌い踊るミュージカルを上演。明和電機の土佐信道扮するヒゲ博士が発明するあっと驚く奇天烈なマシンが次々に登場し、そこで働く工員やロボットが歌い踊りながら、機械や音楽のテクノロジーの仕組みをわかりやすく伝えた。普段見たことがない楽器や装置は、子どもたちにとってモノ作りへの興味を促す貴重な体験となった。

助成を受けて

明和電機として、様々なコンサートを上演し続けていますが、出発点が現代美術なので、基本的には大人向けの活動を行っていました。しかし、今回は機械の動きの面白さを子どもたちに見てもらおうコンサートを企画しました。従来より経費が色々かかることが想定されたので、助成を申請しようと考えました。助成のおかげで子ども向けのプロモーションを行うことができましたし、制作スタッフの確保、照明・音響機材を充実させることもできました。

日頃、様々なアイデアプランはあるのですが、資金調達の厳しさもあり、なかなか実現できていません。そのため、公演回数を増やす努力をしているのですが、なかなか収支のことを考えると積極的にできないのが現状です。

明和電機は土佐信道がプロデュースするアートユニットです。今まではちょっと変わったものが好きな大学生や大人が主な客層でしたが、今回は子どもがたくさん見に来てくださり、明和電機の変った世界観に若いうちに触れてもらうことができました。目的意識をしっかりと持って、活動内容・プロモーションとも狙い通りにできました。これも助成を受けたおかげだと考えています。

今回は子どもを意識することで、直感的に分かるものの大事さも必要だと感じましたし、大人が楽しめる演目と子どもが楽しめる演目が異なることも改めて感じました。面白いものは誰が見ても面白いのは明らかなはずなので、そのあたりを乗り越えて活動を続けていこうと思います。全国展開、海外公演も積極的に行いたいと考えておりますが、演目の上演回数を重ね回数を増やし、PR ももっとして、明和電機というユニットの認知度を上げていく必要があると感じております。



▲おもしろマシンが次々登場！
メカニカルミュージカル「ヒゲ博士とナンセンス★マシン」



▲ステージ、客席が一体になる機械と音楽のパフォーマンス
メカニカルミュージカル「ヒゲ博士とナンセンス★マシン」

株式会社 TASKO

〒142-0062 東京都品川区小山 3-8-16 パートナムハウス 1F
Tel: 03-6451-3435 URL: <http://www.tasko.jp>

10 第7回京都ヒストリカ国際映画祭

京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会

助成金額 2,000千円

活動概要

京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会は、2009年に発足し、日本の時代劇を含む歴史映画を中心に上映を行う京都ヒストリカ国際映画祭の事業全体の企画・立案を行っている。

第7回京都ヒストリカ国際映画祭は、オープニング上映・クロージング上映として、中国を代表する監督であるツイ・ハーク監督の『タイガーマウンテン〜雪原の死闘〜』と日本の紀里谷和明監督の『ラスト・ナイツ』の2作品を上映。メインプログラムの「ヒストリカワールド」では、ジャパンプレミア、関西プレミアとなる世界の歴史映画の最新作を6か国6作品上映。また、文化的な差異を超えて歴史映画を楽しむプログラム「ヒストリカフォーカス」として、日本のテレビ時代劇14作品を特集上映した。また、地元の立命館大学映像学部と連携したプログラムなど、新たな取り組みを実施し、今までと異なる観客層に発信することができた。



▲『吸血セラビエ』のプロデューサーのアレクサンダー・グレア



▲会場風景

助成を受けて

より多くの作品の上映、ゲストの招へいをするため、またより多くの方に見てもらいたいと考え、広報の充実を図るために助成の申請を行いました。企画費はもちろん、運営費（事務局費）が不十分なため、映画祭運営のみの専従スタッフをおかず、年間を通じた協賛活動や広報活動、事務局整備が徹底できないのが今までの課題でした。

助成を受けることで、上映作品数・ゲスト招へい数の向上、関西地域の観客に向けての広報展開、SNSの広告活用に役立てることができました。

また、海外での映画祭の知名度が低いため、セールスエージェントから良い作品を選べないという苦勞がありました。それでも、継続的に映画祭を開催し、積極的に日本初上映作品等の粘り強い交渉をし続けることで、セールスエージェントとの関係も強化され、今では先方からオファーが来るケースも出てきました。

今後は、若手の発表の場の拡充を図りたいと思っています。また映画という映像メディアだけでなく、「歴史」という枠組みの中で、他メディア・他ジャンル・他業界（小説、漫画、アニメ、音楽など）との連携も図り、「歴史コンテンツの祭典」に発展させたいと考えています。国内外の他の映画祭と連携を図ることで、限られた予算の中で拡充を図っていききたいと思っています。

京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会

〒616-8163 京都府京都市右京区太秦西蜂岡町9

Tel: 075-862-5026 URL: <http://www.historica-kyoto.com>

11 第10回北海道ユニバーサル上映映画祭

北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会

助成金額 400千円

活動概要

北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会は、誰もが持つ様々なニーズを可能な限りすべて受け入れることができる「UD 社会環境」・「人に優しく健やかなコミュニティ」の精神に則り、ユニバーサル環境の提供を行うことを目的とし 2006 年に設立された。

北海道ユニバーサル上映映画祭は、健常者も含めて同じ環境で映画を見ることによる感動の共有と芸術文化分野でのユニバーサルデザインの実現を目指し、上映作品すべてに日本語字幕、音声ガイド等のユニバーサル環境を実施している。

第10回となる平成27年度は、北海道北斗市総合文化センターかなで〜るにて、「くるみ割り人形」「ペコロスの母に会いに行く」「チルソクの夏」「群青色の、とおり道」を上映。また、小学生・中学生・高校生ワークショップなどの体験プログラムや記念シンポジウム、ゲストトークショーなどを開催し、10年の節目としての映画祭が、よりお祭りらしく楽しいものとなった。



▲中高生ワークショップステージ発表の様子
(北斗市総合文化センターかなで〜る)

助成を受けて

第10回の節目の取り組みとなりましたので、上映作品そのものに関心を持ってもらえるように比較的大きな作品を揃え、監督他主演俳優さんを招へいしました。

参加していただいた方や地域の中ではユニバーサル上映を体験することで、健常者と障がいのある人とのバリアは低くなっていると思います。障がいを持つ方への個別的な対応ではなく、あらかじめユニバーサル環境を用意することで、誰もが気軽に参加することができます。また、小中高校生のワークショップでは、ユニバーサルデザインの環境を体験することにより、他者を認め思いやる心の醸成に寄与し、子どもたちの心に残ったものになったと思っております。さらに、視覚障がい者を中心としたツアーの実現により、地元以外の参加者を団体として受け入れることができました。

日頃、観客動員数が伸び悩み、チケット収入及びプログラム広告料だけでは経費をまかなうことができない、上映を引き受けてくれる適当な団体がない、自主上映の場合、上映作品が限られてしまうなど、集客の関係や上映機材の調達などの課題を抱えていました。

今回、助成金を受けたことと早い段階での招待者が決まったことで、企画の取り組みを順調に進めることができました。

長年の課題となりますが、どのようにして来場者を増やし、この取り組みを知ってもらう機会を増やすことを考え、今後、ユニバーサルデザイン社会を目指す様々な取り組みと交流することで、より広く、この取り組みを発展させたいと思います。



▲音声ガイドの様子 (北斗市総合文化センターかなで〜る)

北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会

〒040-0003 北海道函館市松陰町 2-6 UD 企画函館

Tel: 0138-55-1855 URL: <http://inclusive-t.com/local/hokkaido-universal-movie/>

12 創立 35 周年記念式典・耶馬溪サミット in 中津・オペラ「青の洞門」（中津文化会館）

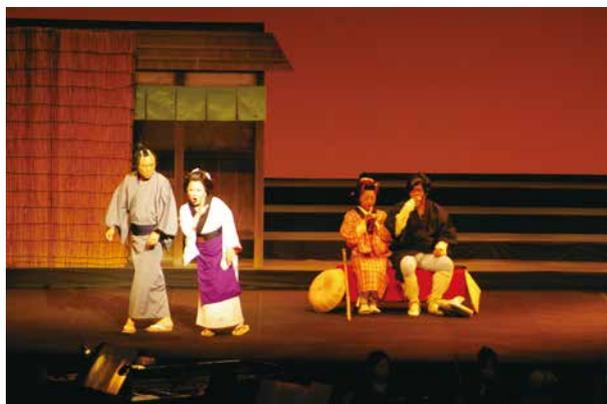
特定非営利活動法人 中津文化協会

助成金額 1,583 千円

活動概要

特定非営利活動法人中津文化協会は、地域文化、芸術の向上に取り組むことを目的として 1980 年に設立。毎年、市民芸術文化祭や寄席、コンサート、演劇等の自主文化事業を実施しており、協会の基本方針である「創る」「育つ」「楽しむ」3 事業が包括された活動として、オペラ公演を実施している。

公演に先立ち開催された協会創立 35 周年記念式典では、これまでの事業の紹介と永年会員 33 名を表彰した。また「日本新三景」に指定されてから 100 年の節目として開催された耶馬溪サミット in 中津では、景勝地耶馬溪の景観を再認識し、景観保全に努める意義を来場者に伝えることができた。式典に引き続き、中津市を舞台とした歴史ロマンにあふれるオペラ「青の洞門」を上演。地元在住者が出演するオペラ公演ということで、市民の関心度が高く、文化協会の事業等も知っていただく機会となった。



▲オペラ「青の洞門」



▲オペラ「青の洞門」

助成を受けて

中津文化協会創立 35 周年記念にふさわしい事業としてオペラ「青の洞門」、耶馬溪サミットを企画しましたが、事業費が多額になるため、助成を申請しようと思いましたが。

日頃、中津文化会館の指定管理者として自主事業を始めとした活動をしていますが、会館の老朽化や座席数が少ないことによって、思うような自主事業が開催できないことが課題となっています。

今回の活動を行うに当たり、中津市が合併 10 周年となり、合併した 1 市 4 町村の文化協会等にも協力をいただきました。また、合併以前に開催されたオペラ「青の洞門」の再演ということで、初演を行ったオペラ団体への再演交渉、今回の上演のための市民への出演参加の公募、発会式の開催を行いました。しかし、初演時の大道具や小道具等が古くなっていたため新たに製作したことや、衣装やかつらなどを舞踊関係や温泉旅館等に協力してもらって調達したことなど、苦勞もたくさんありました。

事業費が多額になる中、助成のおかげで入場券の価格を抑えることができたため、多くのお客様に会場に来ていただけたと思います。関連事業の耶馬溪サミット in 中津も相乗効果をもたらし、名勝地「耶馬溪」の景観の再認識にもつながったと思っています。

今回は、他市町村の文化協会の協力など、助成金以外にもたくさんの支援をいただいたため、地元寄り添った活動を行い、市民に文化協会の活動を周知し続けることの大切さを感じました。今後も、引き続き協会員や市民の文化活動の進展に向け活動していきたいと思っています。

特定非営利活動法人 中津文化協会

〒 871-0058 大分県中津市豊田町 14-38 中津文化会館内

Tel: 0979-24-1155 URL: <http://中津文化会館.net/>

13 たかさき発！鉄道とアートの旅 （平成27年度高崎市美術館企画展）

高崎市

助成金額 1,561千円

活動概要

高崎市美術館は、高崎市の美術分野の拠点として、1991年に設立。本物の芸術作品に親しむ身近な機会を提供するとともに、市民の芸術文化活動を支援し、個性豊かな地域文化の振興を推進している。

JR高崎駅では日々6万人近い人々が行き交い、数年前から「SLの街、高崎」として、全国的な人気を呼ぶなど、高崎市と鉄道は深い絆で結ばれている。「たかさき発！鉄道とアートの旅」は、夏休みに合わせて「鉄道・SL・旅・アート」をテーマとして、幅広い層の方々に美術館活動と高崎市の魅力をPRした。

今回の展示では、鉄道写真家の中井精也の鉄道写真、アーティストのヤマガミユキヒロによる高崎の駅や鉄道をテーマとした作品、ヒューマン・インターフェイス研究者の廣瀬通孝によるICカードを素材としたデジタル・パブリックアート、ダンボール・アート・クリエイターの岡村剛一郎による電車をテーマとした造形作品など、多彩な作家の作品を展示し、幅広い来館者が鉄道とアートを楽しめるよう工夫した。また、関連事業として、アマチュア写真家による鉄道写真の公募・展示を行った。

助成を受けて

夏季に開催する展覧会については、家族連れを中心に幅広い層の方々が美術館を楽しめるように工夫を重ねていますが、限られた人員・予算の中で企画・実施に苦慮することが多いという課題があります。

そのような中で、本展覧会は、来館者の芸術文化への理解を深めると同時に、高崎という地域の魅力を発信して地域理解につなげたいという意図で企画しました。

具体的には、「鉄道とアート」というテーマを設けて、これまで美術館にあまり足を運んだことのない方々と、美術館リピーターの両者に興味を持ってもらうことを第一に考えました。鉄道写真家、段ボール造形家、インターフェイス研究者、美術家など、多彩な作家に参加してもらい、幅広い層の来館者が鉄道とアートによる心の旅を楽しめるように工夫しました。

結果、大半の来館者に満足していただき、また、当館としては珍しい現象でしたが、男性来館者が女性を上回り、日頃は美術館にあまり関心のない男性の鉄道ファンや子どもたちにPRできたと思います。

今回の活動では「鉄道」というキーワードを使いつつ、あくまでも美術・文化に多くの人々が興味を抱ききっかけを提供したいと考えた結果、意図した良い結果と今後の課題の両方を得ることができました。

今後は、課題を解決しつつ「アートと楽しく自然に出会える美術館」であるように、より一層活動を発展させていきたいと考えています。



▲鉄道とアートを多角的に紹介



▲中井精也氏による鉄道写真の展示

高崎市

〒370-0849 群馬県高崎市八島町110-27

Tel: 027-324-6125

14 バレエ 「くるみ割り人形」(オーケストラ付き) 公演

県央地域に舞台芸術を育む会

助成金額 1,783千円

活動概要

県央地域に舞台芸術を育む会は、舞台芸術を育む活動を通じて、新潟県央地域の文化の発展及び活性化に寄与することを目的として2012年に設立。

2015年12月に新潟県加茂市の加茂文化会館で、チャイコフスキー作曲のバレエ「くるみ割り人形」を上演。出演はバレエ教室の出演者を中心に、東京からゲストダンサーも招へいし、プロのダンサーと県内でバレエを習っている地元のアマチュアダンサーが共演した。オーケストラは新潟セントラルフィルハーモニーが、合唱には新潟県立加茂高等学校合唱部や新潟県立三条高等学校音楽部など、地元の高校生も参加した。地元オーケストラによる生演奏付きバレエ公演の実施は、地域住民が直接舞台芸術に触れ、感動する機会を提供することにより、その地域の芸術鑑賞能力が高まり、ひいては地域文化の振興につながるという効果も生まれた。



▲くるみ割り人形 第一幕 雪の情景



▲公演前のロビーコンサート

助成を受けて

任意団体でも助成金を申請できる場所を探したところ、芸術文化振興基金の「アマチュア等の文化団体活動」の区分が申請可能であることが分かりました。助成対象活動として認められることは、団体としてモチベーションが上がり、また行政、企業、地域住民に対して信用度が大きく増したと感じました。

新潟県央地域は加茂市、三条市、燕市、田上町、弥彦村からなる地域です。会場となる加茂文化会館のある加茂市では、公演の協力について行政にも働きかけやすくなりましたが、会館のない他の地域の行政はまだ我々の活動について認知度が低いです。これからは各地域の公民館などその会館でしかできない演目を工夫して、各地域で規模が小さくなくてもその地域に合った舞台を作り、地元の皆さんに来ていただけるような環境を作っていく必要があると感じます。

この活動を行っていることで、それまでバレエ、オーケストラに興味がなかった地域の方々が、毎年舞台を楽しむにしてくれるようになりました。公演をご覧になった方は感動してくださったようですし、オーケストラピットがある立派な会館を持つ地域なのだと、誇りに思う地域住民も増えています。ひとつのバレエ教室だけが活動しているのではなく、県央地域の各バレエ教室が協力して舞台を作り上げ、地域住民が鑑賞することにより、心豊かな住民が増えていると感じます。

生のオーケストラの演奏を付けた舞台上演は引き続き行いますが、さらに学校訪問公演も各地域で行っていきたいと思います。身の丈に合った企画で、地域にとって何が必要なのかを今後も考えながら、地域の文化の発展に寄与していきたいと思っています。

県央地域に舞台芸術を育む会

〒955-0063 新潟県三条市神明町2-1 パルム 2.1F
 Tel: 090-9966-2403 URL :<http://www.a-b-a.jp/bgh>

15 第17回 万葉薪能

特定非営利活動法人 和歌の浦万葉薪能の会

助成金額 1,483千円

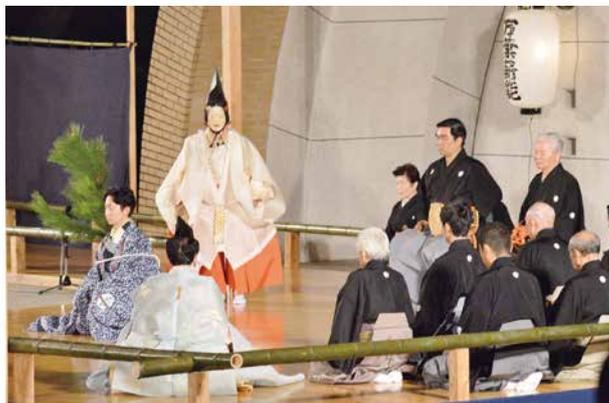
活動概要

特定非営利活動法人和歌の浦万葉薪能の会は、1999年に設立。和歌山県の地元住民に対し、「薪能」の上演を中心に、芸術・文化の普及及び振興を図るとともに、社会教育の推進や環境の保全、健全な街づくりや地域おこし等、公益の増進に寄与することを目的としている。

近畿地方で唯一能楽堂のない和歌山県において、能狂言に触れられる数少ない機会である「万葉薪能」は、和歌山の秋の風物詩として定着してきた。会場は和歌山市和歌浦の片男波公演野外ステージ。公演に先立って6月から10月に行われた、能・狂言・太鼓の各ワークショップには様々な年齢層の男女が参加し、能と太鼓は公演の第一部でその成果を発表した。第二部では大蔵流狂言「蚊相撲」、喜多流能「巻絹」を上演。伝統芸能に触れることにより、日本文化の素晴らしさを体験するとともに、和歌山県における能楽の振興をより一層図ることができた。



▲万葉薪能第一部で発表する「能ワークショップ」の参加者たち



▲喜多流能「巻絹」

助成を受けて

薪能開催の主な収入は、参加協力券収入、スポンサー等会費収入、補助金・助成金ですが、数年前から参加協力券収入が激減しています。地方経済の不況、様々な災害による自粛、観客の高齢化等が理由として挙げられますが、助成金のおかげで値上げすることなく現在の料金で開催できております。また、和歌山市以外の紀北地域や中紀地域、泉南地域にまで広告・宣伝ができたことや、ワークショップの開催も、助成金がなければ実現できなかったと思います。

本会は8年前から次世代を担う児童・生徒を主な対象に、能ワークショップを実施し、その成果を万葉薪能の舞台で第一部として発表しています。その中で、観客の絶賛を受け、参加した小学生たちは日本の伝統文化の素晴らしさを感じ、能狂言文化への関心を深めることができ、能楽文化の底辺を広げ、能楽の普及と振興に貢献できたと思っております。

和歌山県の和歌の浦で薪能を開催したいという情熱を持った人々で始まった団体ですが、情熱だけに頼って続けることが困難になってきておりますので、数年前より、より組織的に活動するために、組織の再構築・再編を行っています。今後も、会員数の増加を図るとともに、スタッフや協力者を組織化し、会の強化を図っていききたいと思います。

薪能にも出演していただいている片山家能楽・京舞保存財団と、小学校での能狂言の鑑賞会を開催していますが、今後もそのように多くの団体や行政と共同で多様な活動をより推進し、能狂言文化の普及・振興や和歌の浦のまちづくりに寄与していききたいと思います。

特定非営利活動法人 和歌の浦万葉薪能の会

〒641-0023 和歌山県和歌山市新和歌浦2-2 木村屋内

Tel: 073-444-0155 URL: <http://manyou-takiginoh.com/>

16 「北大東の景観」展及び 文化的景観シンポジウム

「北大東の景観」展実行委員会

助成金額 1,000千円

活動概要

「北大東の景観」展実行委員会は、「北大東の景観」展及び文化的景観シンポジウムの実施を目的として2014年に設立された。

北大東村が進める燐鉱採掘遺構を中心とした地区を文化的景観として保全・活用する活動を促進するために、沖縄県民に広く北大東村の産業遺構の保全・活用の現状と意義を周知し、今後の活動への支援の拡大を図るとともに、遺構を活用した観光の振興に取り組んでいる。

2015年8月15日から21日に、沖縄県立博物館・美術館において「北大東の景観」展を開催。北大東村に現存する燐鉱石採掘遺構に関する写真パネル、図面、模型、文献、映像等を展示。8月16日には、北大東村の燐鉱石採掘遺構を核として、近代産業に関わる文化的景観の保存・活用の意義や方策を検討するシンポジウムを開催。また、10月29日には、8月16日に実施したシンポジウムの内容を一部縮小して、北大東島の村民向けにミニシンポジウムを開催し、村民や関係者が自らの島が持つ文化と資源が貴重なものであるということを再認識する機会を提供することができた。



▲シンポジウムのオープニング



▲景観展の様子

助成を受けて

今回の企画展に適用可能な助成事業が当助成事業だけでなく、この企画展の主旨や目的が助成対象として合致すると思ひ、申請しました。

北大東村の歴史や文化、現状を知らない方々へのPRのみならず、本村出身者で島外に暮らす方々や関係者等へ、改めて本村の歴史・文化、独特の景観等へ誇りを持ってもらう機会を設けたいと思っております。今回の活動は、お客様から予想以上に反響があり、沖縄での写真展に1,000人以上、シンポジウムには約200名の来場がありました。また、島に戻り凱旋シンポジウムを開催した際も、約100名の来場がありました。地元新聞2紙が複数回記事で取り上げてくれたことも効果があったと思ひます。

本企画を入場無料で開催できたのは助成金の支援があったおかげですし、また多くの観客を集客できたことに活動の公益性を感じました。

今回は村開拓から約100年余、翌年が村制70周年という節目の開催となりましたが、今後も5年ごとの開催等、定期的な開催を試みるべきだと感じました。活動を通して、本村の文化的景観が有する価値、島の今後の発展につながるという意義を村民が認識し始めてくれたと思ひます。

今後も、5年後、10年後と節目となる時期に同様の企画展を開催したいと思っております。

「北大東の景観」展実行委員会

〒901-3902 沖縄県島尻郡北大東村字中野 218

Tel: 09802-3-4001

17 福野夜高祭り曳山・屋台伝承公開

福野曳山保存振興会

助成金額 200千円

活動概要

福野曳山保存振興会は、2005年に設立。富山県の無形民俗文化財「福野夜高祭り」で公開される曳山及びそれに関する事柄の管理維持と後世への伝承を目的としている。「福野夜高祭り」は富山県南砺市福野地域の市街地で5月1日から3日まで開催される江戸時代より続く福野神明社の祭礼である。5月1日、2日の宵祭りには夜高行燈の練り廻しが行われた。また、3日の本祭には4基の曳山と1台の庵屋台が巡行され、昭和27年を最後に途絶えていた曳山と庵屋台の巡行が再現された。

屋台囃子は伝承者の高齢化が進み、次世代への継承が急がれるが、長らく途絶えていた庵屋台の巡行により祭り本来の姿が復活し、屋台囃子の伝承と公開活動を通じて、若者・子どもたちが地域の伝統文化を守り伝えようという意識を高め、郷土愛を深めることができた。



▲本祭りの出発式



▲庵唄保存会の披露式

助成を受けて

4基の曳山は県の有形民俗文化財の指定を受けておりますが、庵屋台は指定文化財ではありませんので、補修費に関して市の補助金は受けられませんでした。しかし芸術文化振興基金の「民俗文化財の保存活用活動」は民俗文化財の復活・復元活動も助成の対象としていることが分かり、助成を申請しました。

江戸時代から戦前まで続いた行燈・曳山・屋台の祭り文化を子孫に伝えたいという思いがありました。行燈は続けられてきたのですが、途絶えていた曳山は平成17年に復活し、残りの庵屋台も是非復活させたいと考えておりました。町内には、庵屋台が4台ありますが、動かせるのは1台だけで、他は動きません。1台でも復活すれば町民の意識も変わるといいますし、残りの3台の復活への取り組みも加速されることが期待されます。

庵屋台を復活させるためには、屋台に入る屋台囃子方なども必要ですので、育成のための庵唄保存会を立ち上げました。屋台の運行については町内全員で行い、三味線・笛・唱の屋台囃子方には子どもも含めて新人教育をしましたが、人材の確保は大変難しかったです。

しかし、祭礼当日、市街地中心の会場にはたくさんの地元住民の方々が来られ、喜んで見物していただきました。また、女性の祭りへの参加者が増えたのも嬉しく思います。

今後は、庵屋台4台の復活が目標ですが、倉庫にある屋台を檜舞台にと動く町内もあり、順次復活すると期待しています。祭りの様子は新聞やテレビでも報道されて大きな反響を呼び、他の3町内でも庵屋台の復活に向けた機運が高まってきました。

祭りは地元住民全員が参加することができ、町内が一体になれる貴重な機会です。今後も、広く参加者を求めるとともに、後継者の育成のために子どもたちへ指導を行っていききたいと思います。

福野曳山保存振興会

〒939-1562 富山県南砺市福野1

Tel: 0763-22-3995

18 漆文化継承活動

特定非営利活動法人 麗潤館

助成金額 635千円

活動概要

特定非営利活動法人麗潤館は、ウルシ栽培者の減少と高齢化の中で、国内漆生産が衰退化を辿っている状況を踏まえ、ウルシ栽培者を支援し、生産技術継承を図ることを目的として2013年に設立された。漆や漆生産及び漆工芸品や漆製品に対する知識や理解を多くの人に深めてもらうべく、漆に触れ合う機会を創出し、広く啓蒙活動を行っている。

平成27年度は、耕作放棄地をウルシ植栽地として確保（賃借）し、将来的にウルシを植栽・育成する生産者を志す若手の研修の場とすることに加え、この植栽地と麗潤館常設の展示場で漆製品や漆工芸品と触れ合うことができる活動を行った。

植栽地では下草刈り体験ツアー、漆掻き体験ツアーを開催し、農林業関連を志す学生の関心を掘り起こした。また、麗潤館常設展示場では、漆塗り体験教室を開催し、漆に対する理解と関心を深めてもらった。



▲漆掻き体験ツアーの様子



▲漆塗り体験教室の様子

助成を受けて

漆は日本の伝統文化を支えるものであり、我々の行っている活動が芸術文化振興基金の助成事業の趣旨に合致すると思ひ、助成の申請を行いました。助成のおかげで、体験ツアーや体験教室の広報を充実することができ、また、ワークショップの開催回数を増やすことができました。開催回数が増えたことにより、口コミ効果等によって関心が高まり、より多くの方々に参加していただくことができたと思っております。

ウルシの木の減少や漆掻き職人の高齢化・後継者不足により、漆は生産量が減少し、絶滅の危機を迎えています。今では安価で使いやすい化学塗料の製品が多く流通し、漆塗りの製品に触れる機会は年々減少の傾向にあります。茨城県は漆の産出量全国第2位を誇る良質な漆の産地であるにも関わらず、県内だけではなく産地のある町内の方にも認知度が低いことが課題です。

各イベントの参加者には、ウルシの木の育成過程・管理方法、漆掻き技法など、漆に直接触れ合うことを通じて、漆生産者、ウルシ林、漆掻き職人の減少や後継者不足などの現状に対する理解を深めてもらい、漆工芸品、漆製品に対する関心を高め、和漆の希少性を理解してもらうことができたと思っております。

漆文化を守る活動は、すぐには成果が出ないので、長い目で見ることがあります。今後は、10年後を見据えて1本でも多くのウルシの苗木を植栽すること、漆掻き職人が安心して仕事ができる仕組みづくりを目指すこと、様々な機会において漆の現状を広報すること、漆工芸品に留まらず漆の活用を広げ次世代の漆文化の形成を目指すこと、これらを4本柱として継続した活動をしていきたいと考えております。

（編集注：生えている木は「ウルシ」、採取した液は「漆」と表記しております。）

特定非営利活動法人 麗潤館

〒319-3526 茨城県久慈郡大子町大子 705

 Tel: 0295-76-8777 URL: <http://reijunkan.com/>

19 東京定期演奏会 第 669 ~ 第 678 回

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

助成金額 43,285 千円

活動概要

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団は、芸術文化の普及と振興を図り、我が国の音楽芸術の向上、国内外の文化の交流に寄与することを目的として 1956 年に設立された。

本公演は、首席指揮者ラザレフや桂冠名誉指揮者小林研一郎、尾高忠明、広上淳一との長年の共演で培ってきた円熟のサウンドをもたらすとともに、正指揮者山田和樹や首席客演指揮者インキネンらとは、邦人現代作品の公演や世界的アーティストとの共演を実現した。

また、下野達也との「日本フィル・シリーズ」特集は、我が国から生まれた傑作を埋もれさせないための貴重な企画として再演し、高い評価を得ることができた。



▲第 674 回東京定期演奏会（撮影 浦野俊之）

助成を受けて

演奏力・企画力の向上が著しい日本のオーケストラ界において、聴衆のみならず、奏者の要求に見合った指揮者・ソリストの招へいには多額の資金が必要であり、大きな経済バックボーンを持たない日本フィルのような民間オーケストラは、慢性的な経済的不安を抱えています。

今回、定期公演にラザレフが 3 回、インキネンが 2 回登場できたのは、助成を受けたおかげです。また、ヒューイットやホープといった世界的著名アーティストの招へい、ブルックナーやマーラーに代表される大編成の楽曲演奏の実現にも、助成が大いに役立ちました。

大きなメインスポンサーを持たない団体ですので、助成によってチケット価格の増額を一定の割合で抑えられている事実もあり、聴衆にも助成の効果が還元されていると考えています。

定期演奏会は 1 回 1 回が完結した演奏会のため、一見するとそれぞれ専門的な内容ですが、聴衆の「音楽を楽しむ習慣」のため、オーケストラの向上のために、継続性のある企画も大切です。5 年以上の継続的なプロジェクトとすることで、それがオーケストラの個性の一つとなり、集客にもつながっていくと思いました。特に、東京定期演奏会では、ショスタコーヴィチといった作曲家をメインに据えたプログラムで、サントリーホールを満員にすることができたのは、継続の賜物だと考えています。

今後は、60 周年の歴史に裏付けられた伝統と、21 世紀を生きるオーケストラとしての在り方を両立させ、一人でも多くのお客様に日本フィルの演奏を聴いていただけるよう、コンサートホールのみならず、あらゆるところで活動を発展させていきたいと考えております。

さらに、固定した現在の指揮者陣に加えて、将来を見越した新たなアーティストの出会いを探る時期に入っていると考え、現在だけを見るのではなく、5 年後、10 年後を見越したオーケストラの人生設計を考えなければならぬと感じております。また、音楽の普及と聴衆の拡大という永遠の課題にも引き続き取り組んでいきたいと思っております。



▲第 675 回東京定期演奏会（撮影 山口敦）

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1

Tel: 03-5378-6311 URL: <http://www.japanphil.or.jp>

20 東京バレエ団公演 『白鳥の湖』（ブルメイステル版）

公益財団法人日本舞台芸術振興会

助成金額 31,972 千円

活動概要

東京バレエ団は1964年に創立。創立当初から「世界」を視野に入れて活動を展開している日本を代表するバレエ団の一つである。1981年には、音楽・舞踊を主とする舞台芸術の普及向上や舞台芸術の国際交流の推進などを目的として財団法人日本舞台芸術振興会（2011年に公益財団法人に移行）を設立し、東京バレエ団の管理運営を行っている。

『白鳥の湖』はどのバレエ団にとっても大事なレパートリーであるが、本公演は斎藤友佳理新芸術監督を中心とする新体制の目玉として、ウラジーミル・ブルメイステル演出・振付による新版の『白鳥の湖』として上演された。舞台装置はブルメイステルの演出意図を正確に実現するため新製作し、また衣装はモスクワ音楽劇場バレエ団から借用を行うことで、世界に現存するブルメイステル版の中で、最も振付家の意図したものと原点回帰した作品として、高い評価を得た。



▲東京バレエ団 ブルメイステル版『白鳥の湖』第3幕より
photo:Kiyonori Hasegawa



▲東京バレエ団 ブルメイステル版『白鳥の湖』第2幕より
photo:Kiyonori Hasegawa

助成を受けて

東京バレエ団は、欧米の本場でも通用する世界の第一級レベルのバレエ団として存在すること、またその質を維持することを目標としています。バレエ団は生きた存在なので、古典の重要なレパートリー、新しいレパートリーの拡充、現在の振付家との共演などのチャレンジもバレエ団の活性化には大切だと思っています。

一番の課題は、芸術団体の財政基盤の確保です。民間の団体で真にプロフェッショナルなバレエ団を維持することは、非常に難しいのが現状です。一過性の保障ではなく、恒久的な保障が必要だと考え、バレエ団の活動にはこうした課題に対し、現状の最善を尽くしていくことが求められています。

助成のおかげで、チケット価格を抑えることができただけでなく、学生や親子が鑑賞しやすい料金設定が可能となり、日ごろ舞台芸術に接する機会の少ないお客様にトップレベルの舞台を鑑賞していただくことができました。また、新たな広報宣伝にも取り組むことができ、広く舞台情報の拡散に努めたことも観客の増加につながりました。舞踊全体への興味・鑑賞の誘発、チケット価格を抑えることによる鑑賞環境整備、助成によって多くの成果が得られた公演になったと思います。

今後の活動については、バレエ団にとって「最もふさわしい時期に、最もふさわしい作品を上演していくこと」がダンサーにとっても、観客にとっても最も重要なことだと考えています。財政的な課題も含めて、極めて難しいことなのですが、バレエ団の生きた発展のために、非常に重要なことだと考えています。

公益財団法人日本舞台芸術振興会

〒153-0063 東京都目黒区目黒 4-26-4

Tel: 03-5721-8000 URL: <http://www.nbs.or.jp>

21 バースデイ・パーティ

株式会社 演劇集団 円

助成金額 6,896千円

活動概要

演劇集団円は、1975年に現代演劇協会附属劇団「雲」から、芥川比呂志を中心に独立して設立された。現在の代表は橋爪功。こよなく演劇を愛する人が集まり、それぞれの立場で個人の能力を向上させ、より充実した舞台作りを目指している。

本公演では、2005年ノーベル文学賞を受賞したハロルド・ピンターが1958年に発表した「バースデイ・パーティ」を上演。若手の演出家内藤裕子と大ベテランの翻訳家喜志哲雄、現場で細かいニュアンスを解明していくドラマトゥルクの芦沢みどりの3名による共同作業により、深く統一された作品メッセージが出演者に伝わり、難解とされているピンター作品のテーマが観客に伝わり、作品の持つ魅力を観客と共有できた。



▲上より 石住昭彦、佐藤銀平（撮影 森田真造）

助成を受けて

助成のおかげで、若い観客、特にこの春演劇を学ぶために演劇研究所、芸術系の大学に入学した学生を対象に特別割引を実施することができました。ピンター作品に触れることにより、これから学び、活動しようとする演劇分野において、向き合わなくてはならない作家として認識してもらうことができました。

海外作品の上演は、歴史的背景、宗教・人種・社会的問題が立ちはだかり、その部分を解きほぐし、今、この日本で上演する意図を明解にしなければなりません。今回のピンター作品は難解なので、ドラマトゥルクの芦沢みどり、翻訳家の喜志哲雄氏の協力を得て、書かれた時代背景、他作品も研究し、作品の持つ真実の追及に時間をかけました。その結果、思いがけずに作品の持つ喜劇性が浮き立ち、人間関係を丹念に突き詰めたときに真実の姿が見えてきました。人間が社会で生きていく中で突き当たってしまう不条理と恐怖は、現在のみならず、歴史をさかのぼり普遍的に潜むものとしての認識を観客に提言できたと思います。

活動に参加したメンバーは、作品を学び、上演し、観客の反応に刺激を受け、次なる活動の力になりました。また、公演時の情熱だけでなく、活動を永く持続させる体勢の確かさを保持していかなければならないとも考えています。

観客にとっては、世界の作家の作品を観ることは、作品を楽しむことだけではなく、作者の人生、時代、社会的背景を認識し、遠くの知らない国の物語が自らの日常を問う一助になるはずです。

今後ですが、創立40年を超え、創立メンバーも少なくなった今、創立以来続けてきた古典劇、海外作品、日本人作家の書き下ろし作品、こどもステージの4本の柱をより強固なものにするため、若い力を中心に活動をしていきたいと思っています。



▲左より 山乃廣美、深見由真、岩崎正寛、石住昭彦、佐藤銀平（撮影 森田真造）

株式会社 演劇集団 円

〒181-001 東京都三鷹市下連雀4-14-32 興信三和ビル2号

Tel: 0422-29-8135 URL: <http://www.en21.co.jp>

22 宝生会 別会能

公益社団法人 宝生会

助成金額 2,503千円

活動概要

公益社団法人宝生会は、1912年に社団法人宝生会として設立。宝生流の総括組織として宝生流能楽の伝承と興隆に努める。宝生能楽堂を能楽の殿堂として広く一般に能楽を紹介するほか、子どもから大人まで参加できる能楽教室や講座、体験教室等の普及活動も企画運営し、公益事業を展開している。

別会能は、毎年春（3月）と秋（10月）に開催している。月例会ではあまり上演しない大曲、秘曲を上演する特別な会であり、平成27年度は10月には狂言「寢音曲」、能「当麻」「砧」「正尊」、3月には狂言「箕被」、能「春日竜神 白頭」「西行桜」「道成寺」を上演。三役の演者にも重鎮と呼ばれる方々が出演し、品位と格式のある特別な会として上演することができた。



▲平成27年 宝生会 秋の別会能「正尊」シテ 武田孝史



▲平成28年 宝生会 春の別会能「道成寺」シテ 敷 克徳

助成を受けて

日本の伝統芸能「能楽」の魅力や素晴らしさを、今を生きる方々に伝えたいと実施している公演に、公的な支援をお願いしたく助成を申請しました。大曲・秘曲の上演や優れた技能を持つ演者に出演していただくことは、経費の負担が重くなるのですが、助成のおかげで公演水準を高いレベルで維持することが可能となりました。多くの舞台経験に裏打ちされた技能を持つ演者たちが一体となって創り出す演能空間は、観客を魅了する力を備えていると改めて感じる事ができたと思います。また、演目の詳しい解説や時代背景などを紹介した「観能ガイド」というパンフレットを無料配布できたことも助成のおかげです。

能楽界を取り巻く環境は厳しく、娯楽が多様化している現代で「能楽」の魅力をいかに発信していくか、実際にお客様が能楽堂に行きたいと感じる公演づくりをどのようにしていくかが課題になっていましたが、「能楽」をもっと広く知っていただくための広報の費用の捻出が難しいと感じています。今後も支援があれば、集客数増加のために公演に関する宣伝活動もより充実させることができると思います。

公演を実施するにあたり、若手・中堅能楽師にバランスよく出演機会を提供し、熟練度を高め、芸術水準を上げていくことが理想ですが、月例会も含めると公演を継続することは大変です。また、別会能では今回のように大曲や秘曲の上演も行いますが、出演料の高騰にもつながりますので、実施にはリスクも伴っていると感じています。

能楽の素晴らしさを多くの人に知っていただくために、長年受け継がれてきた伝統は守りつつ、新たな試みも取り入れていかなければならないと思っております。能楽に限らず、日本の文化・芸術には素晴らしいものが数多くあるので、それらと一線を画すのではなく、様々な分野で活躍されている方々と協力し、お互いの持つ素晴らしさを魅力を発信していく企画・活動も取り入れていきたいと考えております。

公益社団法人 宝生会

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-5-9

Tel: 03-3811-4843 URL: <http://www.hosho.or.jp>

23 定席 寄席公演

一般社団法人 落語協会

助成金額 63,757 千円

活動概要

一般社団法人落語協会は、古典落語を中心とする寄席芸能の普及向上に関する事業を行い、我が国の文化の発展に寄与することを目的として 1946 年に設立された。現在の会長は四代目柳亭市馬、副会長は九代目林家正蔵。

東京都内にある、鈴木演芸場・末広亭・浅草演芸ホール・池袋演芸場 4 軒の寄席定席では、ほぼ毎日公演が行われているため、落語に関心を持った際に、すぐにも足を運べる環境があり、多くの人に落語鑑賞の機会を与えている。また、この貴重な芸能伝承の場で寄席興行を年間通じて行うことは、長い時間をかけて達成される芸人の技術向上に重要であり、古典落語及び寄席定席の発展・継承に不可欠である。



▲会長 柳亭市馬

助成を受けて

年間を通してみると、集客が落ち込む時期があり、売りに基づき支払っている寄席の出演料は安価で、安定的ではありません。少しでも多くの出演料を支払いたいという思いから、助成の申請を行いました。

助成を受けることにより、出演者が今まで以上に高いモチベーションのもと、自らの芸を披露することができています。また、出演者も助成を受けているということで、その責任を理解して、今まで以上に日々の稽古に励むようになりました。

昨年あたりから、寄席、落語を題材にした映画やアニメが放送され、様々なメディアでも多く取り上げられ、今まで寄席に足を運んだことのない観客層が多く来場して下さるようになりました。

寄席公演は、お客様に舞台鑑賞の場を多く提供して、落語を含めた大衆芸能を広く知ってもらおうという役割とともに、落語という江戸時代から継承される芸能の伝承場所としての役割も担っています。どちらの目的もすぐに達成できることではありませんが、寄席の集客に繋がるような新たな宣伝を徐々にではありますが行っているため、観客数は日々増加していると思っています。

現在、寄席は今まで落語に興味のなかったお客様が多く来場しています。また、世間でも落語の認知度が徐々に高まってきています。この機会を逃さず、多くの新しいお客様を取り込み、一過性ではなく、今後につながっていくような観客を育て、寄席という空間を継承、発展させていきたいと思っています。



▲定席 寄席公演

一般社団法人 落語協会

〒110-0005 東京都台東区上野 1-9-5

Tel: 03-3833-8563 URL: <http://rakugo-kyokai.jp>

24 恋人たち

松竹ブロードキャスティング株式会社

助成金額 11,000千円

活動概要

松竹ブロードキャスティング株式会社は、衛星映画演劇放送株式会社として1992年に設立。日本の映画や時代劇や歌舞伎、韓国や台湾などのアジア映画を「衛星劇場」及び「ホームドラマチャンネル」で、全国に配信している。近年は映画製作にも力を入れており、本作品は「力ある監督が撮りたい映画を撮る」「新人俳優にチャンス」というテーマで、かつてのATG映画のような作家性の強い映画を作ろうと始めた企画である。監督・脚本・編集は橋口亮輔。

映画の内容は、心に傷を抱えた3人の男女のちょっと滑稽で悲しい恋の物語。幸せを求めながら、叶わない3人の男女の人生がかすかに交錯し、それぞれが絶望の中で小さな希望を見出していく。

準備・撮影は2013年11月～2014年12月、仕上げは2015年1月～5月。完成試写は2015年6月。上映時間140分。



▲撮影風景



▲主演の篠原篤

助成を受けて

助成を申請した理由は、まずは映画製作の財源確保のためですが、『恋人たち』は日本を代表する映画監督・橋口亮輔のオリジナル作品であり、本作のテーマも現代に生きる弱者たちを映し出した社会性に富んだものであったため、日本の芸術文化に貢献できる作品になると考えたことも大きな理由です。

映画企画を考案し骨組みとなる脚本が完成したところで助成金の申請を行い、同時に撮影を開始しました。助成を決定していただいたことにより、ポスターや本編に文化庁のシンボルマークを掲載することになりましたが、そのことで観客から作品に対する信頼性が高まったように感じました。

もともと低予算ではじめた企画ですが、助成を受けることによって、より質の高い作品を観客に提供できたと思いますし、作家主義的な企画を続けることによって、少しずつですが、映画ファンの掘り起こしにつながっていると信じております。

一般的な大作映画と比べて小規模な作品ではありましたが、たくさんの観客に鑑賞していただき、またキネマ旬報や毎日映画コンクール、日本アカデミー賞など、数々の高い評価を得たことで、海外映画祭への出品や国内での大きな話題につながりました。

現代日本に生きる弱者を描きつつ、その感情と希望を丁寧に描いた本作は、登場人物と同じ気持ちを抱えて生きる方たちの共感を得たと思います。本作を鑑賞いただいたことで、そういった方たちの支えや救いになったのではないかと感じています。

今回の映画製作の取り組みを継続して続けることが、今後の発展につながると考えております。

松竹ブロードキャスティング株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル5階

Tel: 03-5250-2321 URL: <http://www.eigeki.com/>

25 マンガをはみだした男 赤塚不二夫

株式会社グリオ

助成金額 6,000千円

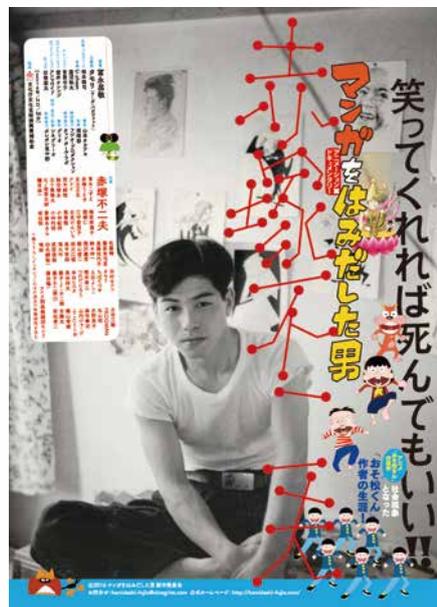
活動概要

株式会社グリオは、1996年に設立。映像製作を軸に多角的な事業展開を行っている。

本作品は、日本の漫画史上、最も破天荒にして不世出のギャグ漫画家、赤塚不二夫のドキュメンタリー映画化である。

関係者の証言や残された未発表の映像・スチール等の資料をもとに、漫画家の枠に収まらず、自らをギャグ化し命がけで生きた赤塚不二夫の壮絶な人生を、アニメーションを多用したアニメイテッド・ドキュメンタリーの手法を用いて製作された。

撮影は2015年4月～10月、アニメーション制作は、2014年10月～2015年12月、完成試写は2016年2月。2016年4月より、日本各地の映画館で上映された。上映時間96分。



▲© 2016 マンガをはみだした男 製作委員会

助成を受けて

商業として成り立ちにくいと思われるテーマの作品を手掛けるにあたり、過去の作品で文化芸術振興費補助金の助成金を受けた時に製作費において非常に助かったため、今回も助成を申請することにしました。長期による取材・編集となりましたが、助成のおかげでキャストも充実させることができました。

赤塚不二夫を知る方たちの映像をまとめた作品は、関係者の皆さまがご高齢となってきており、今回が最後になってしまう可能性があるため、後世に残すべく資料価値の高い作品になったと思います。赤塚不二夫の代表作「天才バカボン」や傑作「レッツラゴン」に見られる破壊的表現から、果ては自分までも「歩くマンガ」へと変貌させていったアナーキーな生涯に迫った本作品は、赤塚不二夫の「新しい人物像を発見できた」という多くのお客様の声をいただき、映像作品として残せたことに対する意義はあったと考えます。

本作品は、アニメイテッド・ドキュメンタリーという新しい手法を用いることにより、「クールジャパン」という位置づけで国際展開も図りたいと思います。また、「すべての人を楽しませたい」という赤塚不二夫の意思を鑑み、障がい者向けの対応（バリアフリー上映）を積極的に行い、社会貢献も目指します。

次の作品も企画はしていますが、やはり資金的なハードルは高いと思っております。しかし、社会的、文化的に残さなければ、という次なるテーマを扱うために、また助成金を活用できればと考えております。



▲© 2016 マンガをはみだした男 製作委員会

株式会社グリオ

〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-1 AKビル 3F
Tel: 03-6823-6205 URL: <http://www.griots.co.jp>

26 百日紅～Miss HOKUSAI～

株式会社プロダクション・アイジー

助成金額 21,000千円

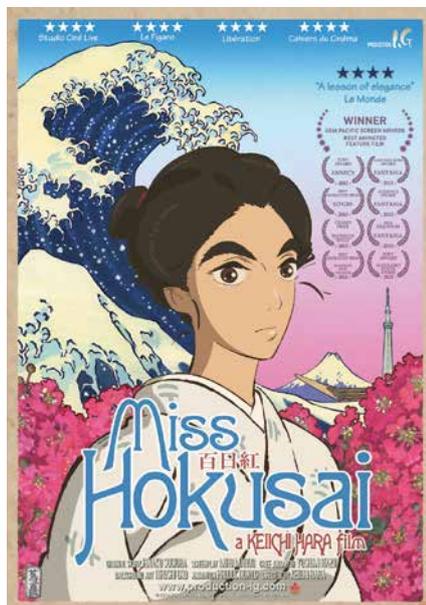
活動概要

株式会社プロダクション・アイジーは、1987年に設立されたアニメーション製作会社である。

「百日紅～Miss HOKUSAI～」は、著名な江戸風俗研究家であり、漫画家・文筆家である杉浦日向子の代表作「百日紅（さるすべり）」を、国際的にも高い評価を得ている原恵一監督の手によりアニメーション映画化した。

江戸時代の浮世絵師として一世を風靡し、生涯浮世絵を描き続け3万点を超える作品を残した葛飾北斎と、その北斎を支え続け自身も浮世絵師として後に北斎名義で大量の作品を残したと言われる娘、お米（後の葛飾応為）を通して、江戸に生きる画家や町人たちなどの生き生きとした江戸庶民の生活が描かれた。

絵コンテ制作は2013年2月～2014年11月、作画は、2013年8月～2015年2月。完成試写は2015年4月。2015年5月より全国の映画館で公開された。上映時間約90分。



▲海外展開時に使用されたメインビジュアル

助成を受けて

アニメーション映画の製作には非常に費用がかかりますが、作品の性質上、予算調達が難しかったため、助成金の申請を行いました。助成のおかげで、製作に関わる様々な点において、より高い品質での作品を目指すことができましたと思います。

世界最大規模のアニメーション映画祭であるフランスのアヌシー国際アニメーション映画祭の長編コンペティション部門に正式に招待され、長編アニメーション部門で審査員賞を受賞するなど、国際的にも評価を得ることができたおかげで、北米、フランス、イギリス、ドイツ、台湾など世界各国で公開されました。

また、日本が誇る文化である浮世絵と最も著名な浮世絵師である葛飾北斎をテーマに、海外から注目の高いアニメーション映画を制作したことで、その魅力を世界中で再発見してもらい、世界中の方に日本文化へ理解を深めていただけたと思っております。

今後も継続して、日本文化の認知向上に寄与するような映画を制作していこうと思っております。



▲アヌシー国際アニメーション映画祭授賞式での原恵一監督

株式会社プロダクション・アイジー

〒180-0006 東京都武蔵野市中町2-1-9

Tel: 0422-53-0139 URL: <http://www.production-ig.co.jp>

27 発明家ドンちゃん

スタジオ四次元ボーヤ

助成金額 1,060千円

活動概要

スタジオ四次元ボーヤは、杉浦茂関連のアニメーション映像制作を目的として2014年に設立。

「発明家ドンちゃん」は、昭和初期より活躍した漫画家杉浦茂が1992年小学生向け雑誌『おおきなポケット』に掲載した漫画が原作となる。ナンセンスでシュールな杉浦漫画をマルチプレーン撮影(多重のガラスの層に背景やキャラクターをそれぞれ配置し撮影する方法)による半立体アニメーションで映像化した。

サブカルチャーの世界では崇拜されているが、残念ながらまだまだ一般的に知られていない杉浦茂を、アニメーションという親近感の持てる媒体で、杉浦漫画の魅力をより広く紹介できる作品となった。

製作期間は2014年12月から始まり、完成試写は2016年3月。上映時間6分15秒。

助成を受けて

今回の作品は、静止している物体を1コマ毎に少しずつ動かしカメラで撮影するストップモーションアニメーションという技術を採用しているのですが、この技術は時間と費用がかかるため、作品の製作活動に多くの時間を割けるよう助成金を申請しました。また、助成金の内定を受けた後は、作品のクオリティを上げるために外部の協力を依頼する時も、提出した書類を元に活動の意義を明確に提示することができました。

杉浦茂の作品には、難解な部分と理解しやすい部分同居している不思議な作品がたくさんあります。今回の原作も、悪役がまったく悪役に見えない興味深いキャラクターが登場する独特の雰囲気を持ち合わせた作品だったので、原作のイメージを損なわないよう心がけました。助成によって活動を認められたことで責任感が生じ、高いモチベーションを保ちながら作品を作ることができましたし、今までにない達成感を感じることができたので、これを機に、今後の制作活動においても更なる達成感を感じられるように、アニメーションの制作活動を続けていきたいと思っています。

また、杉浦茂の影響を受けた者として、未来のクリエイターにも影響を与えるであろう杉浦茂の世界観をより多くの方に知ってもらうために、他作品のアニメーション化も目指しています。本作品をはじめ、他の良質なストップモーションアニメーションを上映する機会を設け、普段アニメーションを見る機会がない方にも見ていただけるよう、また、より身近にアニメーションを感じてもらえるように活動していきたいと思っています。



▲紙や布などを使い半立体の人形を作ります。



▲2層のガラスと背景の層にキャラクターを配置することで奥行きのある画面が表現できます。

スタジオ四次元ボーヤ

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-12-30 (102)

Tel: 090-2651-7915

芸術文化振興基金への御案内

芸術文化振興基金は、国の出資金と企業等からの寄附金を原資として創設され、我が国の文化芸術活動に助成し芸術文化の振興普及に寄与しています。

この基金の創設にあたり、その趣旨に御賛同の上、多額の御寄附をいただいた企業等は次のとおりです。御支援に深く感謝いたします。

支援企業グループ

建設	昭和電工(株) 積水化学工業(株) 第一三共(株) 三菱化学(株)	ヤマハ(株)	T&Dフィナンシャル生命保険(株) 東京海上日動火災保険(株) 日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社 マニユライフ生命保険(株) 三井住友海上火災保険(株) 三井生命保険(株) 明治安田生命保険相互会社
青木あすなろ建設(株) (株)安藤・間 (株)大林組 鹿島建設(株) (株)熊谷組 佐藤工業(株) 清水建設(株) 積水ハウス(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 戸田建設(株) 飛鳥建設(株) 西松建設(株) (株)長谷工コーポレーション (株)フジタ 前田建設工業(株)	石油・鉄鋼 出光興産(株) 新日鐵住金(株)	印刷 大日本印刷(株) 凸版印刷(株)	不動産 住友不動産(株) 東急不動産(株) 三井不動産(株) 三菱地所(株)
食品	機械・精密機械 日本精工(株) HOYA(株) (株)リコー	百貨店 (株)高島屋 (株)三越伊勢丹	輸送 カトーレック(株) 全日本空輸(株) 東京急行電鉄(株) 日本航空(株)
アサヒビール(株) 味の素(株) 麒麟ホールディングス(株) サッポロホールディングス(株) サントリーホールディングス(株) 雪印メグミルク(株)	電気機器 沖電気工業(株) キヤノン(株) (株)JVCケンウッド シャープ(株) ソニー(株) TDK(株) (株)東芝 日本コロムビア(株) 日本電気(株) 日本アイ・ビー・エム(株) パイオニア(株) パナソニック(株) (株)日立製作所 富士通(株) 三菱電機(株) (株)村田製作所	銀行 (株)新生銀行 (株)みずほ銀行 みずほ信託銀行(株) (株)三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) (株)三菱東京UFJ銀行 三菱UFJ信託銀行(株) (株)横浜銀行 (株)りそな銀行	観光 (株)ジェイティービー 藤田観光(株)
繊維	電気機器	証券 SMBC日興証券(株) SMBCフレンド証券(株) 三洋証券(株) (株)大和証券グループ本社 野村証券(株) みずほ証券(株) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) 山一証券(株)	出版 (株)講談社 (株)小学館
東洋紡(株) 東レ(株) (株)ワコールホールディングス	輸送用機器 トヨタ自動車(株) 日産自動車(株) 本田技研工業(株) 三菱重工業(株)	保険 アクサ生命保険(株) 朝日生命保険相互会社 ジブラルタ生命保険(株) 住友生命保険相互会社 損害保険ジャパン日本興亜(株) 第一生命保険(株) 大同生命保険(株) 太陽生命保険(株)	広告 (株)電通 (株)博報堂
パルプ・紙	薬器 (株)河合楽器製作所		通信・電力・その他 東京電力(株) 日本たばこ産業(株) 東日本電信電話(株) (公財)全国税理士共栄会文化財団 (平成28年5月現在、順不同)
化学・医薬			
花王(株) コニカミノルタ(株) (株)資生堂			



芸術文化振興基金による助成

目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行います。

助成対象活動

◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

※詳細は、ホームページ <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動並びに優れた日本映画の製作活動を支援することを目的としています。

助成対象活動

◆舞台芸術創造活動活性化事業（※）

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

（※）平成 28 年度より、「トップレベルの舞台芸術創造事業」の後継事業として開始されました。

助成の形態には、活動毎に助成を行う公演事業支援と、複数の活動を一括して助成する年間活動支援があります。

助成金の額の算定方式の類型には、①芸術水準の向上を図るとともに、芸術団体の集客努力を促し、より多くの国民に優れた舞台芸術を提供するため、入場料収入に応じた支援を行う「入場料収入連動型」と、②芸術団体の芸術水準の向上となる公演の中でも、特に企画性の高い意欲的な芸術活動について、創造活動に対する支援を行う「創造活動経費支援型」があります。

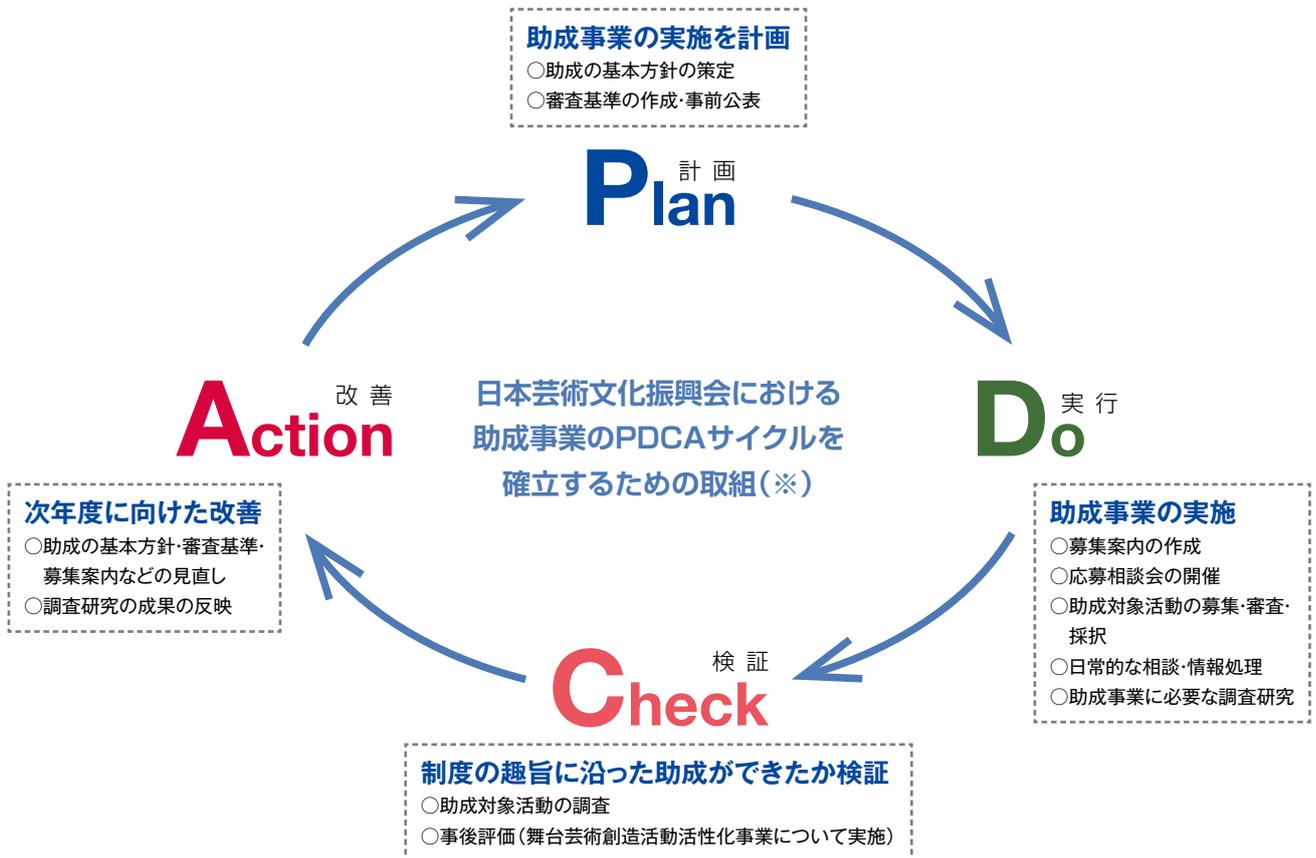
◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画

※詳細は、ホームページ <http://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

文化芸術活動に対する 助成システムの機能強化について

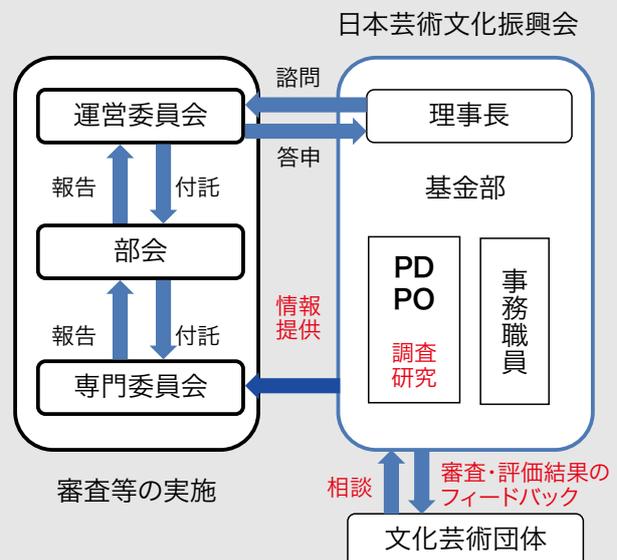
日本芸術文化振興会では、文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に取り組んでいます。具体的には、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について、専門家であるプログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、その知見を活かして助言、審査、事後評価及び調査研究等の充実を進めています。



※ PDCA サイクルとは：計画の作成、計画に沿った実行、実行の結果を目標と比べる検証、発見された課題に対する改善の4段階を繰り返すことで、事業の質の向上を目指す取組です。

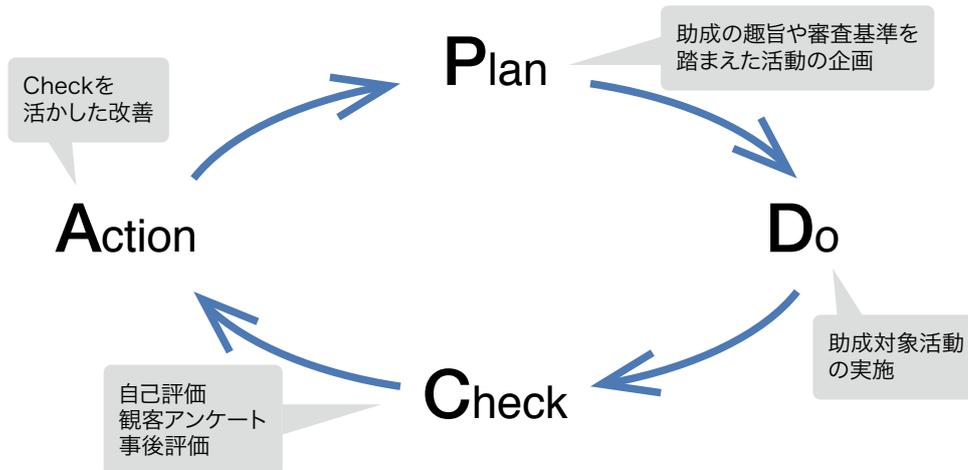
取組の実施体制

芸術文化振興基金運営委員会は、助成対象活動について、採択に係る審査のほか、事後評価に関する審議及び決定を行います。PD・POは、専門的な視点から運営委員会などに対して情報提供を行うとともに、審査・評価の結果を文化芸術団体にフィードバックします。



助成を受けた文化芸術団体も、団体としてのPDCAサイクルが必要です。

助成対象活動の実施が文化庁の政策目的の実現につながったかどうかについて、文化芸術団体自らが評価を行い、事後評価の結果も踏まえながら、改善を行っていく必要があります。



文化芸術への公的支援に関する考え方はどう変化していますか？

平成23年2月8日に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(第3次基本方針)では、「従来、社会的費用としてとらえる向きもあった文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す。」とされました。

したがって、助成金の交付対象として採択するかどうかを判断する場合には、助成金の趣旨に沿った活動かどうかに加え、「戦略的な投資」にふさわしい「社会的必要性」を踏まえた活動計画になっているかどうかを考慮することになります。

当振興会の助成金に応募される文化芸術団体には、助成金交付要望書を作成するに当たり、当該活動の展開を通じて、社会にどのような波及効果を及ぼすことが見込まれるのか、分かりやすく説明していただくこととなります。

詳しくはHPをご覧ください→ <http://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artscouncil.html>

助成システムの充実のための具体的な取組は？

プログラムディレクター (PD)・プログラムオフィサー (PO) 制度	文化芸術に関する専門家であるPD・POを配置し、その専門的知見を活かして、文化芸術活動に関する助成システムの充実を進めています。
審査基準の作成・事前公表	要望書提出期間の前に、日本芸術文化振興会のホームページに採択に当たっての審査基準を公表していますので、文化芸術団体は、各助成金の目的や、活動内容に何が期待されているかを知ることができます。
文化芸術団体からの相談への対応	活動の企画に当たって不明な点や、参考となる先行事例等についてPD・POに相談できるよう、日本芸術文化振興会のホームページに連絡先を掲載しています。また、全国で応募相談会も開催しています。
助成対象活動の調査	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかを検証するため、PD・PO等が実際に公演に赴き、調査を行っています。
事後評価の実施	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかについて、公演調査の結果や実績報告書等に基づき、評価を行っています。評価結果はPD・POを通じて各団体にお伝えしますので、次回の要望に向けた改善に活かしてください。
調査研究の実施	助成事業の効果の検証や改善に資する資料とするため、調査研究に取り組んでいます。

発行日 _____
平成29年3月1日

編集発行 _____
独立行政法人
日本芸術文化振興会 基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎03-3265-6302
URL <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html>

